

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度（令和2年度）	科目名	キャリアデザイン1	
科目基礎情報					
開設学科	AIシステム科	コース名	—	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	開講時間		授業形態	講義
教科書/教材	資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員			実務経験の有無・職種		
学習目的					
専門学校の目的は各分野の専門技能を身に付けたスペシャリストを社会に送り出すことである。その人材は専門分野に長けていることはもちろん、社会人としての資質も身に付けておく必要がある。本講座では働く意味を明確にし、学生と社会人との違いを認識するとともに、社会人になるための道筋、つまり就職活動の手順と方法を学ぶことが目的である。具体的には筆記試験の問題が解けること、履歴書やエントリーシートが書けること、面接試験に対応できることが目的である。					
到達目標					
現在の自分を分析し将来の仕事を選択できること。企業や就職情報のWebサイトを活用し自分に合った企業を選択できること。履歴書の目的と記述内容を理解し自分をアピールできる履歴書が書けること。同様にエントリーシートが書けること。会社訪問時の服装・マナー・言葉遣いが理解できること。面接の目的を理解し自分をアピールすることができる。筆記試験問題を解くことができ、就職活動の準備ができることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	キャリアサポートブックに沿って就職活動の流れと書類の作成方法について学ぶ。まずはじめに自己分析を行い自分の興味・志向を確認する。次に業界と職種を理解し自分が進むべき方向を見定め、企業へのエントリー方法と履歴書の書き方を学ぶ。さらに筆記試験と面接試験の概要を学び後期に受講する「キャリアデザイン2」の実践的学習につなげる。筆記試験対策として毎回「就活ドリル」の問題を演習する。				
注意点	授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。欠席は基本的に認めない。授業に出席するだけでなく、社会人として働くことを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。毎回「就活ドリル」の問題を演習するので、高校まで学んできた5教科を復習しておくこと。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	30%	毎回「就活ドリル」の問題を演習する		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（2）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	自己分析(1)／「就活ドリル」英語1～3演習		過去の自分を分析できる		
2回	自己分析(2)／「就活ドリル」英語4～6演習		現在の自分を分析し、将来の仕事を選ぶことができる		
3回	業界、業種、職種研究／「就活ドリル」英語7～10演習		業界・業種・職種について理解できる		
4回	企業研究／「就活ドリル」国語1～3演習		会社の種類、会社の組織について学び、自分に合った会社を選ぶことができる		
5回	資料請求／「就活ドリル」国語4～6演習		電話およびEメールのマナーを学び、資料請求ができる		
6回	Webエントリー／「就活ドリル」国語7～10演習		企業または就職情報サイトからWebエントリーができる		
7回	履歴書(1)／「就活ドリル」数学1～4演習		履歴書の書き方の基本ルールが理解できる		
8回	履歴書(2)／「就活ドリル」数学5～8演習		基本的な履歴書を書くことができる		
9回	エントリーシート／「就活ドリル」数学9～12演習		説得力のあるエントリーシートが作成できる		
10回	会社説明会／「就活ドリル」理科1～3演習		会社説明会の種類を見極め、自分に合った会社説明会に参加できる		
11回	会社訪問／「就活ドリル」理科4～6演習		アポイントから訪問時の身だしなみ、礼状の書き方までができるようになる		
12回	筆記試験／「就活ドリル」理科7～10演習		筆記試験に合格できる、特に作文が書けるようになる		
13回	面接試験(1)／「就活ドリル」社会1～3演習		面接試験の種類と選考ポイントが理解できる		
14回	面接試験(2)／「就活ドリル」社会4～6演習		簡単な模擬面接を体験し、評価を自分自身にフィードバックできる		
15回	内定／「就活ドリル」社会4～6演習		礼状が書ける。入社までの期間の過ごし方が理解できる		